

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2875201143		
法人名	株式会社 ジョブステート		
事業所名	グループホーム 陽だまり		
所在地	〒651-2213 兵庫県神戸市西区押部谷町福住628-192		
自己評価作成日	平成23年9月13日	評価結果市町村受理日	平成25年2月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所
所在地	兵庫県神戸市長田区菟乃町2-2-14
訪問調査日	平成24年9月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

少人数の利点を活かし、家族的な雰囲気作りに取り組み、利用者が安心して暮らせる「家」作りを目指している。
 又、園芸療法・学習療法・音楽療法を取り入れ、利用者とスタッフがコミュニケーションを図りながら、生き活きと生活出来る環境作りをしています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

①**利用者は家族**・「利用者は、家族であり自分の父・母のように接するところからはじめよう。」を基軸とした事業所運営が実践されている。②**充実した生活**・一般住居を改修した事業所は、正に生活をするためのスペースとなっている。広い敷地は、果樹(みかん、柿等)が植えられ、田植えや畑での野菜作り(収穫物は食卓を彩る)を行い、動物(ヤギ、犬)とも触れ合える環境となっている。日々の暮らしの中では、園芸療法、学習療法(くもん)、音楽療法を採り入れ、職員と共に生き活きとした豊かな生活が送れるようになっている。③**地域交流**・自治会の一員として、様々な行事への参加、運営推進会議への地域に係わる方の出席、近隣中学校のトライやるウィークの受け入れ等、地域における事業所の役割を意識した取り組みが多く見られる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新たな理念をつくりその理念を理解し、実践していけるように取り組んでいる。	「利用者の尊厳を守り、地域に根付いたグループホーム」を基本方針とし、事業所を一つの家族として捉え、自分の父・母に接するように利用者として扱い、近隣の方との触れ合いを大切に取組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の一員として、地域の行事(ゴミブリ団子作り、お祭り)に参加させていただいたり、地域の方々に支援協力をいただいている	事業所のある地域は、「陽だまりビレッジ」のようになっており、事業所主催の行事や地域行事での相互交流が図られている(夏祭り、盆踊り、ピアノ演奏会等)。	今後も、地域の社会資源として、認知症ケアの理解と浸透への積極的な取り組みに期待をします。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事務所のスペースを地域の方に利用して頂いている、又、介護保険の利用についての問い合わせの相談にのっています 又、新たに食養庵陽だまりを作り、シルバー会、自治会、生活会の方々の集いの場所になっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を年6回開催し、その構成員である民生委員さんを通じさらに地域との交流が深まった	会議には、計画作成担当者や介護職員も参加し、地区のふれあいのまちづくり協議会や民生委員の方々との意見交換等、事業所内の課題解決に留まらず、地域の中での事業所の役割がより明確になった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	3か月に一度開催されている。 区主催の協議会に参加し、同業者や市政職員との交流を図っている 今年度は神戸市の認知症対応のリーフレット作りのお手伝いをした	区のグループホーム連絡協議会(年4回)に参加し、行政職員、同業者と連携・交流している。市職員とは種々の相談を行い緊密な連携をはかっている。また、神戸市の保健所よりの打診で認知症対応に関するリーフレットづくりに関わった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	不定期ではあるがスタッフ研修を行い、その中で身体拘束および虐待に関する勉強会を行っている	日中、玄関は解錠し、自由に出入り出来る状態になっている。利用者の思い・動きを止めてしまうような何気ない言葉(スピーチロック)についてもその廃止に向けて職員相互で確認し合っている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会は月1回の会議の中で、またそれ以外でも積極的に勉強会を設けている	高齢者虐待防止に関する基礎研修(概論)に様々なケースでの事例検討を行い、その防止の徹底をはかっており、「不適切なケア」についても全職員が注力してケアにあたっている。	

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度そのものを知らない職員や理解不足の職員が多くおり、今後、権利擁護や成年後見制度を利用者やその家族に活用できるよう、勉強会を開いている	権利擁護に関する制度の理解と同時に権利擁護に係る様々な事例等の検討も必要と考えており、地域包括支援センターの協力も計画している。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者および家族との面接、又、施設の見学を兼ね体験入所を行い、納得していただいた上でご入居いただいている	契約前に、利用者・家族との面談、事業所見学（体験入居）、並びに入居案内等資料による説明を行い、充分納得された上での契約締結となっている。	家族からよくある質問等をまとめ、今後の契約や職員教育に活かせる取り組みにも期待をします。(Q&Aの作成等)
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が面会に来られた時、ご意見や要望を聞きだすように配慮し、それを個々のサービスや運営を見直す機会にさせていただいている	利用者ご本人よりの聴き取りや家族訪問時や家族会での意見や要望を吸い上げ、運営面での課題を明確にした上で見直しを行っている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度開催される職員全体会議で話し合いの場を設けている。 緊急の場合は管理者に直接、調整を求めています	利用者に寄り添う介護従業者の意見を第一優先とし、サービスの質向上に取り組んでいる。住居改修型の事業所であるため、ハード面での要望が多く、都度改善している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	顧問社労士とともに職場環境条件の整備を月2回行い、キャリアパスが完成した		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県、市または看護協会が実施する勉強会や研修会に参加するべく呼びかけている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新たに取り入れた園芸療法、学習療法での勉強会を通じ同業者との交流が増えた		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の生活歴などを御家族から聞き取り、今ご本人が困っていらっしゃる事や不安に思っていることを職員が把握しよう心がけている		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の説明時に、家庭生活での困りごとや不安に思っていることなどを伺い、家族が望まれるケアの提供を示し、ご家族に安心していただくよう努めている		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時の情報提供書や御家族からの今までの生活歴の情報をいただき、ご本人にとって、どのようなサービスが必要かを職員と話し合い、対応に努めている		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に介護される側の気持ちを察し、生活空間を供用していることを意識しながら、支援している		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族には負担をかけないよう、ご協力いただいている		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一部の利用者ではあるが、入所にいきつけだった喫茶店にコーヒーを飲みに行ったりお店の方が来訪して下さることがある 近隣の方々とは、挨拶をかわす程度である	以前通っていた喫茶店でコーヒータイムを楽しんだり、お店の方が訪ねて来られたりしている。美容院や接骨院等入居前からの場所との関係の継続もはかっている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来ないことをスタッフが手伝うのではなく、出来る利用者が他の利用者と一緒に作業できるよう、声かけや協働で支援している		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームで死亡退去されたご家族との交流は年数回の電話、葉書で行っており良い関係が保てている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と職員の信頼関係は深く、一人ひとりの関わりや話し合いによって、希望や意向などは把握している。自分から気持ちを伝えることが困難な方については、職員がその方の視点にたつて、話し合っている	利用者と職員の関係性は深く、利用者個人ごとの実態(思いや意向、健康面も含め)を把握しており、職員間の情報共有もタイムリーに行われている(連絡ノート、申し送り等)。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所された時点では必要な支援がわかりにくいですが、ホームで生活していく中で本人や家族との関わり合いや話し合いによって要望や意見などを把握するよう努めている		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の生活状況は連絡ノートや申し送りにて、職員同士 情報を共有し、その日その日の心身状況を把握するよう努めている		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員同士が情報を共有するよう心がけ、月に1度ミーティングを行い、課題やケアのあり方を話あっている。本人や家族から意向を聞けない場合は、本人の気持ちを察し、より良い生活支援提供できるよう話あっている	現行介護計画に対する利用者の現況確認とその整合性チェックは、職員参加の定例ミーティングで行い、不具合等については計画を見直している。	実態として、チームでのケアマネジメントは実践されています。検証作業を行う上でも帳票等の再整理を行われては如何でしょうか。
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間での話し合いや決定事項を連絡ノートに記入し、職員が同じケアを実践できるよう努めている		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のおかれている状況に合わせ、その時々ニーズに対応できるよう取り組んでいる		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方の協力を得て、2か月に一度の「ふれあい喫茶」に参加させていただいている。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ病院を希望される利用者には入所前と同じ病院の受診を支援し、希望のない利用者には体調に合わせて必要な医療を受診できるよう支援している	24時間の医療連携体制を敷いており、月2回の協力医(内科)の往診を受けている。歯科、眼科等の受診は、外出を兼ねて事業所が対応している。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医との医療連携体制が整い、看護師とも24時間体制の連携が取れるので、利用者の普段と違う様子や身体の変化に気付いた時は、看護師に伝え 主治医からの指示をあおんでいる		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、介護サマリーを作成し情報提供している。入院中は職員が病院に向き病棟看護師より現情報を入手している。 基本的には、主治医より入院先へ状態や病歴情報を提供していただいている	入院時には、代表者や管理者が病院との連携をはかっている。職員は、利用者の不安感を払拭するため、頻度を上げて面会し、現状把握にも努めている。	
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に利用者・家族にはホームの重度化への対応や終末期の方針について説明し、理解をいただいている。必要に応じて主治医、看護師と連携をとり、家族と話し合いを持ち、最善の支援ができるよう取り組んでいる	入居契約時に、重度化・終末期への対応方針を理解いただいている。そのような状況が発生すれば、家族、医師を交え本人にとって望ましいケアを実践できるようチームですすめている。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新たに2名が介護福祉士の資格を取得し、たんの吸入等を行えるスタッフが育っている		
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラー、自動火災通報装置を設置したことに伴い、業者さんを交えての実施訓練を行った。	日中帯・夜間帯想定での避難訓練を実施している。地域の方々の協力体制は、今後の課題と捉えている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護は細心の注意を払っている 入浴や排せつなどは、さりげなく言葉をかけ自尊心を傷つけぬよう対応している	利用者の自尊心・羞恥心の確保は、事業所の基本方針でもあり、その実践に取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で信頼関係を築けるよう努め、自分の思いを伝えていただけるような関係づくりを心掛けている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の個性や過し方を把握し、それぞれに沿った声かけを行い、臨機応変に対応できるよう努めている			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望により、近隣の美容院へお連れしている。また、ホームでの催しの際には、化粧、ネイルも行った。			
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	会議の場で現場スタッフと調理スタッフが話し合い、利用者の好みにあった食事の提供をしている 食事は職員と共に、食卓を囲みながら 楽しんでいる	利用者の要望を踏まえたメニューに基づき、食事時間を職員と共に楽しんでいる。事業所が有する畑での収穫物が食卓を飾ることが多く、利用者の喜び事にもなっている。月1回の外食ツアーも大好評である。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量は毎日記録している。 水分量は1日1リットル以上摂取していただくよう意識して、利用者の身体状況に応じて支援している			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、出来る方には歯磨きや口すすぎなどの声かけをしている。 介助が必要な利用者は、洗面所へ誘導し、口腔ケア介助を行っている			

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を取り一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行い、排泄の自立支援に努めている	利用者個人毎の排泄パターンやそのサイン(仕草や表情)を記録・共有し、極力トイレでの排泄が行えるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて個々の排便状態を理解し、運動や投薬、水分摂取などで排便コントロールし、便秘予防に気を配っている		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2回、入浴日を定め、利用者に個別入浴支援を行っている。 入浴日が決められているため、利用者の希望を取り入れる事は難しい	週2回入浴を基本とし、入浴剤や季節湯(ゆず湯、菖蒲湯)もとり入れ、気持ちよさを体感できるよはかっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の体調によって、自由に休んでいただくような支援を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表利用で、服薬支援をしている処方変更時は連絡ノートで職員全員が情報を共有できるよう努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月、音楽療法や、体操、楽器演奏などのボランティアさんに来ていただき、楽しんでいただいている。またそうめん流し、七夕、敬老会などの季節行事などでもスタッフとともに楽しく過ごしていただいている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の嗜好に合わせ、喫茶店やレストランへ気軽に出かけられる機会を設けている。またスタッフの買い物に同行出来る利用者は近隣のマーケットにお連れしている 利用者の高齢化に伴い、外出機会の減少した利用者の気分転換が図れるように食養庵陽だまりを利用している	近隣への散歩や買い物の他、敷地での田植えや芋掘り。ぶどう刈りや紅葉狩り、季節毎の花見なども行っている。また、ADL状況により外出の機会が減った方には、併設の「食養庵陽だまり」(食事が行えるコミュニティスペース)で気分転換をはかっている。	

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出や買い物の際には、本人の財布に預かり金を入れ、自分で支払っていただくように支援している 管理が出来ない利用者は預かり金を金庫で保管し、必要時は職員が出納している		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をかける利用者はおられませんが、家族などからかかってくる電話は、子機で取つぎ、居室でゆっくりお話ができるよう、支援している		
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の壁には季節情緒のあるタペストリーを飾り、庭には野菜や花のプランターを置き、季節を感じていただいている。窓も大きく開放し、風や太陽光がたくさん差しこむよう工夫している	建物内だけでなく、広い敷地に田畑や果樹が植えられ、ヤギや犬も共同生活しており、自然に触れることができる開放的な生活感あふれる事業所である。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外に、ソファーなどで好きなように寛いでいただけるよう工夫している		
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、ご本人の思い入れのある品や、馴染みのある使い慣れた家具などを持ってきていただき、安心して暮らせるような配慮をしている	馴染みの家具や思い入れのある品を持ち込み、自分の部屋としてしつらえ生活されている。ADL低下への対応も動線を工夫したりして不具合が生じない様支援している。	今後も、利用者の状態の変化に合わせ、家族と相談しながら居心地の良い居室作りの継続を願います。
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居間や食堂は利用者が安全に移動できるよう、手摺りや家具などで動線を工夫し、トイレや居室などには自力でいける支援をしている		